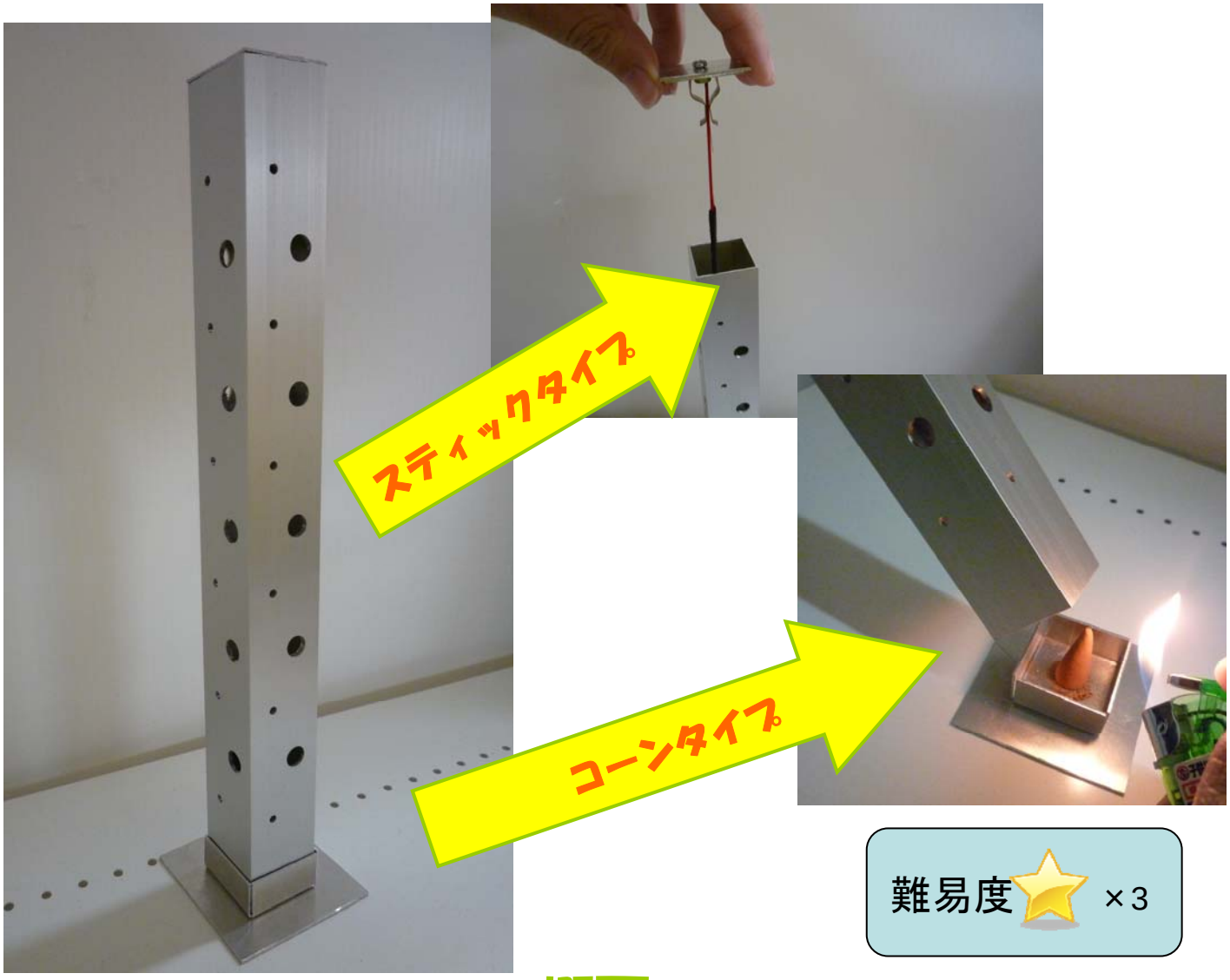
20111118

スタイリッシュな2WAY お香立て



難易度 ×3

概要

アルミ板とアルミ角パイプを加工し、アルミの質感を活かしたお香立てを作成します。今回の教室を通して、

ボール盤　コンターマシン　アルミ曲げ器

について学びましょう。

パイプ部分には自分で好きなデザイン（テンプレも有）で穴あけします。

材料

材料名	個数
アルミ板 (60mm×60mm×1,0mm)	3
アルミ角パイプ (30mm×30mm×300mm)	1

材料名	個数
真鍮	適量
ネジ(M3×6)	1
ナット(M3)	1

使用機械、器具

・コンターマシン

コンターマシンという帯状のノコ刃で板金を切断する工作機械でアルミ板をカットするのに使用します。

・ボール盤

穴を開ける工作機械です。アルミ板に穴を空ける際に使用します。

・アルミ曲げ器

アルミをてこの原理で折り曲げるのに使います。

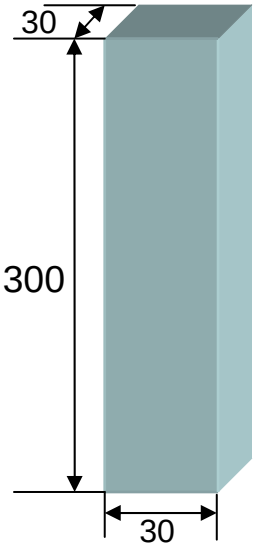
コンターマシン

ボール盤

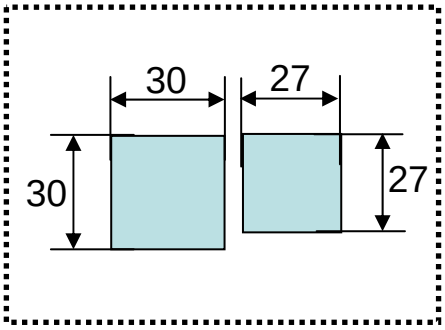
アルミ曲げ器

材料の寸法

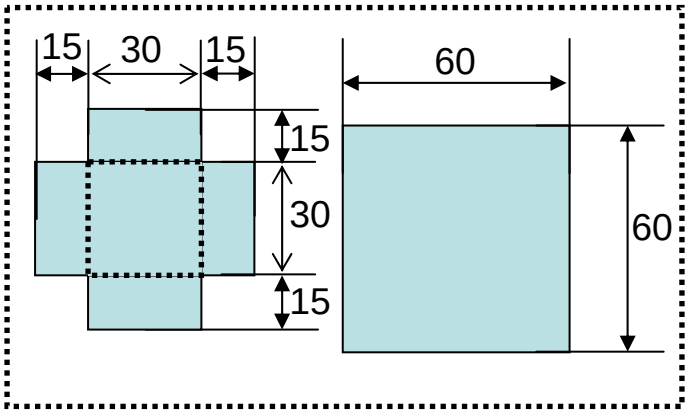
アルミ角パイプ



フタ部分



受け皿部分



作業内容

1 穴あけ

アルミの角パイプにアクリルのジグをつけ、ボール盤により穴あけをします。

2 アルミ板加工

●フタの作成
2枚のアルミ板の中心にハイトゲージを使って中心をけがき、ボール盤で穴あけをします。

●受け皿の作成
アルミ板をけがき、コンターマシンで切断します。皿の形になるように、アルミ曲げ器を用いてアルミ板を曲げます。

3 組み立て

フタのアルミ板2枚を真鍮で作ったクリップと一緒に、M3のネジとナットでとめます。
受け皿、アルミ角パイプ、フタの順番で置けば完成です。

完成!!

コラム

お香って何!?

「お香」とは、本来、伽羅、沈香、白檀などの天然香木の香りのことです。「お香」と聞いてまず思いつくのは、コーンタイプ（円すい形）のものとスティック タイプのものだと思います。これはインドなどでよく使われる物が原形で、香りも昔はムスクやウッド系の物が多く売られていました。

日本にも「お香」に含まれるものがあります。それは「線香」です。「線香」と書くだけあって、これもれっきとしたお香のひとつなのです。究極のお香は”線香”だ！と言って、最後は線香に行き着く人も多いと聞きます。今では線香も、香りの種類がいろいろと多くなっています。

「お香」は、もともと仏教行事に使われていたもので、インドでは宗教のお祭りの時に焚き、線香も本来は仏様のために焚くものです。お香は、仏教と深い関わりがあります。

お香の種類

お香には大きくわけるとスティックタイプとコーンタイプがあります。最近では線香が短くなったようなタイプもあります。

スティックタイプは見た目が手持ち花火のようなもので、燃え尽きる時間は10～20分くらいです。芯の部分が木なので火をつけると煙たくなります。持続時間がコーンタイプよりも長いので、香りの残る時間も長いようです。

コーンタイプは円錐形で、燃え尽きる時間は5～10分くらいです。スティックタイプより煙が少ないので煙たくなりにくいですが、香りの残る時間はそのぶん短いです。

お香は、基本的には燃えている時よりも燃え尽きた後の香りを楽しむものです。その時の用途によって使いわけるのが良いかもしれません。

参考文献

お香について　URL：http://www.okou.jp/incense.htm

お香とはどんなもの？ - 露香

URL：http://www.rokou.net/about_incense/index.html

ものづくり基盤センターの愛称 cremo には，ものを創造するという意味が込められています。cremo では皆さんのアイディアを形にできる体制を整えています。ものづくりを存分に楽しんで下さい。

ホームページ　http://www.muroran-it.ac.jp/cremo/

©室蘭工業大学ものづくり基盤センター 2011